



斉藤実さんのヨット航海の足跡

年	年齢	(年齢はいずれも航海終了時)
1973	39	登山に代わり、ヨットを始める。もっぱら国内のレースに出場
88	54	日本から豪シドニーまで単独航海に成功
91	57	BOC単独世界一周レース(現5オーシャンズ)に挑戦。約197日で完走、クラス3位となる
95	61	BOC単独世界一周レースに2度目の挑戦をし、クラス6位。日本とスタート・ゴール地間の航海を含め、地球2周を走破
99	65	アラウンド・アローン(現5オーシャンズ)に出場、最高齢記録を更新。クラス5位
2005	71	単独無寄港世界一周に成功—写真—。最高齢記録を書き換える。回航を含め、地球7周を達成



07 73 米国のヨット団体から最高賞の「ブルーウォーター・アワード」を授与される

在日外国人が支援  
今回の航海に向け、「サイトウ・チャレンジ8 (www.saito8.com)」という支援組織が出来た。在日外国人を含め、10人以上のメンバーがいる。  
代表者の出版社経営、ハンター・プラムフィールドさん(59)は「斉藤さんは世

界的なセーラー。70歳代後半になって、最も難しい航海を計画するなど、常に挑戦している。ヨットに乗る自分にとっての最大のヒーロー」と話す。そして、「金銭的には恵まれていない。自分たちが少しでも役に立ちたかった」と組織設立の動機を説明し、総帆走距離は28万キロ(約51万8560キロ)になる。

に改造、修理を行った。日本に回航してきたのも斉藤さんだ。その帆走距離だけで、1万7000キロを超える。  
1才62、62才と小柄な斉藤さんだが、日に焼けた顔は精悍で、出発に向けてきばきと作業をこなす。浅草生まれの江戸っ子らしい、べらんめえ口調も健在だ。  
ニュージールランドからの航海で、ジブ(前部の帆)は破れ、各種装備にも故障が発生した。仲間たちの助力もあり、整備はほぼ完了した。出発までの1か月は、



シュテンドウジIIIのキャビン前部の窓。強烈な波、風に備え、アルミの枠で補強されている

月末出港 整備着々  
斉藤さんは、出発を約1か月後に控え、横浜ベイサイドマリナーに保留している愛艇「ニコルBMWシュテンドウジIII」の整備に余念がない。ハワイで手に入れた艇は全長56尺(約17才)の鋼鉄製。1989年進水の古い艇だ。遠洋航海の実績はほとんどない。斉藤さんは自走させてニュージールランドに運び、外洋航海用

ヨット 最高齢・最難関の戦い



ニュージーランドから回航、横浜ベイサイドマリナーに向かうシュテンドウジIII。前部の帆は航海中に裂けてしまった(7月19日撮影)

8度目の世界一周に「西回り」で挑戦する斉藤さん

斉藤さんの西回り世界一周コース



西回り 単独無寄港  
74歳 斉藤さんが挑む

これまで延べ250人以上が成功しているヨットの世界一周だが、西回り、それも単独無寄港となると10人以下。日本では堀江謙一さんだけだ。  
西回りが難しいのは、地球の自転に逆らう方向で、風、波、海流がすべて「アゲンスト」になる。「睡眠を削れば、それだけ安全になる」という危険地帯だ。そして南米大陸南端のホーン岬。最難関で世界一周航海の象徴的地点でもある。緯度は南緯55度59分。そこを越えれば、太平洋。「ここまで来れば安心。後は日本に向かうだけ」という。  
1日に140~150キロ(約260~278キロ)の帆走を想定しての達成となる。順調にいけば到着は来年5月の下旬。6月2日の横浜開港150年記念日までは、帰ってくる。

技術、度胸、勇気が必要

39歳でセーリングを始めた。入門は早くはない。それが、夢中になっていったのは、登山だった。石油販売会社を精力的に経営していた斉藤さんは、谷川岳が好きだった。だが、「自然を相手にする戦いが好き。コートや競技場などの枠があるものにはなじめない」という「一匹狼」にとって、海は山とは違った興奮を与えてくれた。  
そして「仕事は人並み以上にやった。50歳を過ぎたら、ヨットに専念する」と事業からリタイアして外洋航海に本腰を入れた。それが、「世界一周航海レコードホルダー」への道だった。「50歳までのヨットは趣味だった。その後は、人生そのものに斉藤さんは言う。外洋には気象、障害物、艇の故障など様々な困難が待ち受けている。「克服するには、技術、度胸、そして勇気が必要。自分だけで適切な対処をすることしかない」と言い切る。転覆したことも何度もあった。ライバルであり、仲間であるセーラーの死にも直面。「それらのことから逃げずに戦ってきたと自負している」という。

厳しい気象条件  
日本人の成功  
堀江さんだけ

なるためだ。南米のホーン岬に向かう高緯度の南極海では、10尺を超える波が予想される。「艇は鋼鉄製でないともたない」と斉藤さんは言う。  
追い風用の巨大なスピネーカー(風下へ帆走するとき)に使う袋状の帆は使用できない。ジグザクにコースを取って進むしかない。

試験帆走で壊れるところを徹底的につぶすと話す。28日に出港すれば、全行程4万キロ(約7万4000キロ)は、たった一人での戦いになる。修理のために部品の提供を受けたり、寄港したら、「単独無寄港」は消える。  
今度の世界一周は8度目になり、自己の持つ世界記録の更新となる。ただ、西回りでの挑戦は自身も初めてだ。

ヨットマンの斉藤実さん(東京都台東区)が28日に、横浜から世界一周の航海に出る。出港時74歳、来年5月に予定の達成時には75歳になる。世界最高齢での地球一周に加え、「西回り・単独無寄港」という最も厳しい条件でのチャレンジだ。(小島雅生)